

釧路南ロータリークラブ会報

第26回 例会報告 2013.1.25 通算1474回

・点 鐘 森江会長

・幹事報告

長井幹事欠席の為次週に回します。

・ロータリーソング

「それでこそロータリー」



ソングリーダー長倉 巨樹彦会員

・委員会報告

親睦委員会

・本日のニコニコ献金

太田 一男会員 入会記念祝として

森江 洋之会員 結婚祝として

出席委員会

会員24名 17名出席 出席率70%

・入会記念祝

太田 一男会員 H19. 1. 26 (6年目)

・本日のプログラム

「ロータリー理解推進月間に因んで」

担当 ロータリー情報メディア委員会

◆工藤ロータリー情報・メディア委員長

・結婚祝

森江 洋之会員 H6. 1. 29 (19年目)



ロータリークラブとは

ひと言でいえば奉仕クラブ組織ですが、自分の職業を通じて、世界の人々へ奉仕することに主眼がおかれています。

・会長挨拶



会長より色々なお話がありました。

ロータリーとは

「人道的な奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的水準を守ることを奨励し、かつ世界における親善と平和の確立に寄与することを目指した実業人および専門職業人が世界的に結び合った団体である」と定義され、またロータリークラブとは「奉仕の理想」を各人の個人生活、職業生活および社会生活実践の基盤とすることに同意した、実業人や専門職業人によって構成されたクラブと定義されています。

何か難しそうですが、

実際は会員同士の親睦を深め、自己啓発を進めながら、自分の職業を生かして世界や地域に奉仕していくことを目指しています。

肩書きや地位には全く関係なく、ご自分の職業を愛し努力している方、社会の人々のために、ささやかでも何か役立ちたいと言う心をお持ちの方、知性と友情の精神を尊重し実践しようと努力される方であれば、会員として最も適任者と言えましょう。

そもそもロータリークラブは「友情と親睦の渴望」から生まれました。

その後、親睦を通じて生まれたエネルギーを持って「他人に対する思いやりの心」を奉仕の規範とし、「他人の為に尽くそう」と努力している団体です。ロータリアンは自己の日常の家庭生活においても、職業生活や社会生活においても、また、国際的な問題に直面した場合にも、この基本的な「思いやりの心」をもち研修活動を行っています。

ロータリー発祥と現在の規範

次の4つの奉仕活動が中心となって活動されています。

クラブ奉仕

会員相互の親睦を深め、和気あいあいとした協力体制を作ります。また、クラブ全体の運営・調和を図る役割もあります。

職業奉仕

すべてのロータリアンが各自職場での代表でありロータリーの理想の模範を示し、その理想を分かち合うように勧めることを目的とします。これを端的に表したのが有名な四つのテストです。

■ ■ ■ 四つのテスト ■ ■ ■

【言行はこれに照らしてから】

真実かどうか

みんなに会平か

好意と友情を深める

みんなのためになるかどうか

社会奉仕

地域社会の中でその社会が欲しているものを探しだし、そのニーズに対して適切な奉仕活動を行います。

国際奉仕

ロータリーが世界平和と各国間の理解のために強力な力となっている分野です。青少年留学生の派遣や受入れ、世界各地の災害などへの援助など世界的な社会奉仕活動を行っており、世界中からポリオをなくすためのワクチンや医師を提供するポリオプラスは日本が提唱し世界的に推進されているプログラムです。

例会と卓話

ロータリークラブは通常毎週1回例会を開催します。その例会では、クラブとしての活動報告や連絡事項の伝達などがありますが、その後半に「卓話」という会員や有識者による20分間の講演があります。この卓話はロータリークラブの最大の特徴ですが、貴重な自己研鑽の材料となります。

この他にも親睦を深めるための家族同伴活動があります。

ロータリー米山記念奨学会 9 万人のロータリアンが支援

米山奨学事業は、日本最初のロータリークラブの創立に貢献した実業家米山梅吉氏の功績を記念して発足しました。1952年に東京ロータリー・クラブで始められたこの事業は、やがて日本の全クラブの共同事業に発展し、1967年、文部省(現在の文部科学省)の許可を得て、財団法人ロータリー米山記念奨学会となりました。

奉仕の人「米山 梅吉」

米山奨学事業の記念の称号を付した米山梅吉氏(1868-1946)は、幼少にして父と死別し、母の手一つで育てられました。16歳の時、静岡県長泉町から上京し、働きながら勉学に励みました。20歳で米国へ渡り、ベルモント・アカデミー(カリフォルニア州)ウエスレアン大学(オハイオ州)シラキウス大学(ニューヨーク州)で8年間の苦学の留学生生活を送りました。

帰国後、文筆家を志して勝海舟に師事しますが、友人の薦めで三井銀行に入社し常務取締役となり、その後、三井信託株式会社を創立し取締役社長に就任しました。信託業法が制定されると逸早く信託会社を設立して、新分野を開拓し、その目的を“社会への貢献”とするなど、今日でいうフィランソロピー(Philanthropy*)の基盤を作りました。

晩年は財団法人三井報恩会の理事長となり、ハンセン病・結核・癌研究の助成など多くの社会事業・医療事業に奉仕しました。また、子どもの教育のために、はる夫人と共に私財を投じて小学校を創設しました。“何事も人々からしてほしいと望むことは人々にもその通りせよ”これは米山梅吉氏の願いでもあり、ご自身の生涯そのものでした。“他人への思いやりと助け合い”の精神を身もって行いつつ、そのことについて多くを語らなかった陰徳の人でした。

世界の平和を願って—なぜ留学生支援なのか—

「今後、日本の生きる道は平和しかない。それをアジアに、そして世界に理解してもらうためには、一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築くこと。それこそが、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか」——。事業創設の背景には、当時のロータリアンのこのような思いがありました。

それから50年以上の歳月が流れましたが、“民間外交として世界に平和の種子を蒔く”という米山奨学事業の使命は一貫して変わっていません。

むしろ、今日の世界情勢と日本の置かれている状況を考えるとき、その使命はますます重要性を増しているのではないのでしょうか。

留学生への支援は、未来に向かって平和の懸け橋をかける尊い奉仕なのです。

ポール・ハリス

ポール・ハリスという名前を耳にすることがあると思いますが、「いったいどんな人？」と疑問に思っている新会員は少なくないと思います。ロータリーの中であまりにも有名なので、先輩会員はうっかり説明し忘れる場合も少なくないからです。

ポール・ハリスは、ロータリーの創始者です。1868年4月19日、アメリカ・ウィスコンシン州の小さな町、ラシーンで生まれました。ロータリーの文献に載っている彼の写真を見るととてもおとなしそうな印象を受けるのですが、子ども時代は、かなりわんぱくだったようです。



